

基本構想の位置づけ

基本構想は、我孫子市のまちづくりの最高指針であり、市がめざす将来のまちの姿を明らかにし、その実現に向けた行財政運営の目標と基本的方向を示すものです。

我孫子市が定めるさまざまな計画は、この基本構想に即して策定するものとしします。

目標年次

この基本構想は、2002年（平成14年）度を初年度として、20年後の2021年（平成33年）度を目標とします。

I. 将来都市像

◆ 自然環境を文化に高めるまちへ

時代が変わっても、変わらない価値。それが我孫子の自然環境の広がりです。

春夏秋冬の美しい季節の移り変わりに、私たちは何度心を動かされたことでしょうか。その陰には自然の保全と再生につくした多くの先人たちの苦勞があります。歴史を引き継ぎ、環境モデル都市として、国内外の多くの人たちが訪れるよう努力することが新たな目標です。第一は我孫子のシンボルである手賀沼の水質浄化、水質改善ベスト1を実現します。鳥と共にくらし、“雁の飛来よ再び”の夢に挑戦します。それには自然に負荷のかからない資源循環型のくらしを築くとともに、環境問題に取り組む先進的な知恵を生み出すことが重要です。第二は、遊歩道、自然観察園、農業体験園などの交流空間づくりや国際的な水準を意識した湖岸・街並みの景観づくりを心がけます。

私たちは、自然と人の営みが文化になっていくまちをめざします。

◆ お互いを思いやる心で元気なまちへ

少子化・高齢化が進んでも次世代に伝えたいもの、それが我孫子市民の人と人の優しい関係です。

これまでも高齢者・障害者への支援、スポーツや文化活動を通じての子どもの育成など、私たちの心の絆は確かなものがあります。保健、医療、福祉の充実はこの絆をもっと強く自由にします。必要な時に必要なサービスを提供し、地域で支え合うしくみをつくります。公共施設、歩道などのバリアフリー化もそのひとつ。一人ひとりの自立を促し、障害者、高齢者も社会参加できる積極策をすすめます。同じく子どもの出生、子育ても、家庭、学校、地域の連携の中で安心してできるよう知恵をいかします。子や孫に我々の手づくりの人間関係を伝えることによって、相手を思いやる視野の広い子どもたちをはぐくんでいきましょう。住環境についても三世代にわたる定住につながる施策に取り組みます。

私たちは、地域と人への愛着が自然に生まれるまちをめざします。

◆ 出会いと交流で活力を生むまちへ

出会いがあり、交流があり、その中から喜びと活力が生まれてくる。21世紀の豊かさは自由時間が生む文化のありようで測られるでしょう。

我孫子の市民活動や生涯学習はその発信の場として、誰もが自分の能力を発揮してきました。そのレベルは高く、市民、事業者、市が対等なパートナーとしてまちづくりに参画するグループも出てきています。このような市民の市政への参加や起業への動きは、我孫子の大きな特長です。情報技術の活用がすすみ、農家、商店、企業人、NPO、ボランティアの積極的な活動が、我孫子ならではの発信情報を生んでいきます。地元生産、地元消費を基本とした都市農業、研究機関や大学との協働事業などにも情報ネットワークが威力を発揮します。この地であつて文人や芸術家が創作に励んだと同じように、市民は思い思いの創造のやりとりを楽しむでしょう。

私たちは、多様な文化を生む時間と空間のあるまちをめざします。

私たちは、この将来都市像を

『 手賀沼のほとり 心輝くまち 』

～人・鳥・文化のハーモニー～

として共通の目標にします。